

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02860

研究課題名（和文）話題別多読を用いた付随的語彙学習の体系化に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Systematization of Incidental Vocabulary Learning Using Topic-Based Intensive Reading

研究代表者

橋本 直幸（HASHIMOTO, Naoyuki）

福岡女子大学・国際文理学部・准教授

研究者番号：30438113

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、付随的語彙習得を効果的かつ体系的に進めていくための方法として「話題別多読」を提唱し、そのためのツールである「日本語教科書読み物データベース」とその検証を行うための「日本語教科書読み物コーパス」を作成した。「話題別多読」は、共通の話題の読み物を複数読むことで、その話題の重要語の出現を保証し、体系的な語彙習得につながるというものである。学習者向けに調整された素材である日本語教科書は話題別多読に向いていることから、日本語教科書223冊4200の読み物に話題タグを付し、検索可能にしたデータベースを作成した。そして、それらの読み物の言語学的な分析を行うためのコーパスを作成し、検証を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

既存の日本語教科書を活用し、語彙習得の一つの方法である付随的語彙学習を効果的に行うための「話題別多読」を提唱、実践、検証した。またそのためのツールとして、誰もが利用可能な「日本語教育データベース」を作成するとともに、既存の日本語教科書の分析も行った。語彙学習はその要素の膨大さから、体系的、計画的に学習を進めていくことが難しいと言われるが、「話題」というキーワードで括ることにより、語彙学習の可視化を図ることも可能となった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we proposed "topic-based extensive reading" as a method to effectively and systematically promote incidental vocabulary acquisition, and created the "Japanese Textbook Reading Materials Database" as a tool for this purpose, as well as the "Corpus of Japanese reading materials" for its validation. The "topic-based extensive reading" method is based on the idea that by reading multiple reading materials on a common topic, the occurrence of important words on that topic is guaranteed, leading to systematic vocabulary acquisition. Since Japanese language textbooks, which are materials tailored for learners, are particularly suited for topic-based extensive reading, I created a searchable database of 4200 texts from 223 Japanese language textbooks, each with a topic tag. A corpus for linguistic analysis of those texts was then created and validated.

研究分野：日本語教育学

キーワード：語彙習得 多読 日本語教科書 話題 読解

1. 研究開始当初の背景

(1) 第二言語または外国語としての語彙の習得は、一般に「意図的語彙学習」と「付随的語彙学習」に大別される。付随的語彙学習は、読解や聴解などさまざまな言語活動の副産物として語彙を獲得するもので、楽しみながら語彙が習得できること、場面や文脈の中でその語に触れることで、学習者の気付きを促し、長期的な記憶につながることでその利点として挙げられる。一方で、気づきや習得に結びつくためには量的な視点から、その語との複数回の遭遇回数が必要とされている。

(2) 付随的語彙学習のための一つのリソースとして読解教材、とくに多読教材が挙げられる。日本語教育においても英語教育に倣って、近年、多くの多読教材が出版されている。ただ、これまでの多読教材は日英問わず、いわゆる「物語」の読解が多く、その場合、いくら大量に読んだとしても出現する語彙にはばらつきが生じてしまい、安定した遭遇回数の保証ができないことが予想される。

(3) 従来から日本語教育では、特に中級レベル以降では読解活動に重点が置かれ、多くの読解教材が出版されている。また、読解教材では多読教材とは対照的に、説明的文章が多く扱われている。また類似のテーマの読み物も多く掲載されている。

(4) 語彙学習は、その要素の膨大さから「自分が今どんな語をいくつ覚えたのか」「これからどんな語をいくつ覚えればよいのか」といったことがわかりにくく、体系的な語彙学習が難しい。語彙学習を計画的に進めていくためにも、自身の語彙知識の可視化が求められる。

2. 研究の目的

付随的語彙学習の利点を生かしつつ、出現語彙の質や遭遇回数を保証した体系的な付随的語彙学習の方法を考案し、実践、検証する。具体的には、共通の話題の読み物を複数読むことで、その話題の重要語の出現を保証し、かつ、スキーマの活性化も期待できる「話題別多読」を提案し、その実践のための環境整備として「話題別多読システム」およびそれを支える「話題別読解教材コーパス」を構築する。

3. 研究の方法

(1) 日本語読解教科書を用いた話題別多読の提案

話題別多読を実践するにあたり、これまで多くの蓄積がある日本語読解教科書を用いる。日本語読解教科書に掲載されている読み物の話題ごとの数や網羅する話題の数と領域、また、各話題で使用されている語彙などを検証し、話題別多読が実際に可能かどうか明らかにする。そのために、日本語教科書に収録されている読み物のコーパスを作成する。

(2) 話題別多読実践のための環境整備

話題別多読を実践するために、日本語の読解教科書に掲載されている読み物、および総合教科書の読解タスクとして掲載されている読み物をリスト化し、話題タグを付す。リストは web 上で検索できるものとする。

(3) 話題別多読の実践と検証

協力者(日本語学習者)に「話題別多読」を実施してもらい、語彙の習得につながっているか検証する。各話題の読解を終えるごとに、語彙テストおよびフォローアップインタビューを行い重要語のチェックや、印象に残った語についての聞き取り調査をもとに、話題別多読の検証を行う。

4. 研究成果

A. 話題別多読の提案と日本語教科書コーパスの作成

語彙習得を促す活動として、共通の話題(topic)の読み物をまとめて読む「話題別読解(Topic Reading)」を提案した。話題別多読の具体的な効果として、(1) 遭遇回数の保証、(2) スキーマの活性化、(3) 語彙学習の可視化、という3点を主張した。(1)は共通の話題の読み物を複数読むことで、その話題における重要語との遭遇回数を保証するというものである。(2)は内容に関する知識が増えていくことで、内容理解が促進されるというものである。(3)は語彙を「話題」という単位で括ることにより、学習した話題・語彙とそうでないものの区別がしやすく

なり、自身の語彙学習を俯瞰的に捉えられるというメリットが期待される（橋本 2018a）。

また、語彙の遭遇回数が保証されるかどうか、など言語形式面での分析・考察を行うために、日本語教科書約 180 冊、読み物数 3,000 の「日本語読解教材コーパス」を作成した。コーパスは 1 テキスト（1 つの読み物）ごとに 1 つのファイルとして保存している（著作権処理を施していないため未公開）。

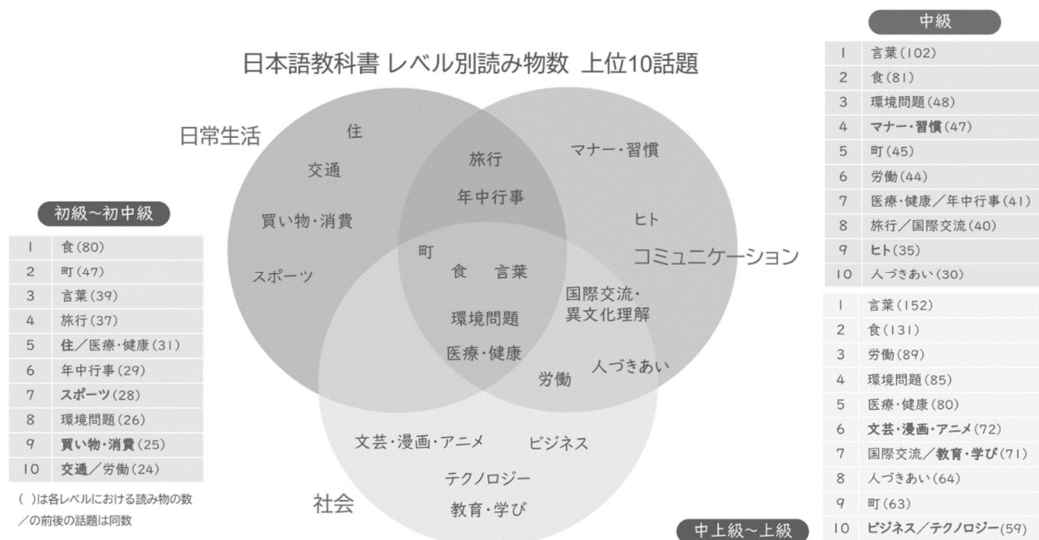
B. 「日本語教科書読み物データベース」の構築と分析

これまでに出版されている日本語教科書が、その話題の明快さや、文章の長さ、網羅する話題の広さ、レベル別の配慮という点から、話題別多読に向いていることを主張するために、日本語の読解教科書に掲載されている読み物、および総合教科書の読解タスクとして掲載されている読み物をリスト化し、話題タグを付したものを『話題別読解のための日本語教科書読み物リスト』として発表した（橋本（2018b））。その後、この冊子版のリストを、検索機能を備えた「日本語教科書読み物データベース」として公開した。これ



を使用すれば、読みたい話題の読み物がどの教科書に収録されているかを検索することができ、話題別多読を効率よく進めることができる。データベースには、2021 年 12 月現在、日本語教科書 223 冊分、4,200 の読み物の情報を掲載している。データベースは、「フリーワード」で検索を行うことができる検索窓のほか、「話題（分野・話題）」の選択、および「レベル」での絞り込みができるようになっている。また、検索結果は、「読み物タイトル」「話題」「キーワード」「収録教科書書名」「発行年」が表示されるようになっており、各列で並べ替えも可能である。また、検索結果はテキストファイルでの出力も可能となっている。なお、データベースの作成にあたっては、山内（編）（2013）の 100 話題を一部修正している。

さらに、本データベースを利用して、日本語教科書における話題の分布や変遷過程など、これまで日本語教育が学習者にどのような読み物を読ませてきたのかも明らかにした。全レベルに共通して扱われている話題として「町」「食」「言葉」「環境問題」「医療・健康」があった。これらの話題は初級レベルから徐々に読み物のレベルを難しくしていくことや、レベル別クラス内での使用など様々な活用法が考えられる。また、それぞれのレベルに特有の話題というものもあり、大きなカテゴリーで見ると初級では「日常生活」に関わる話題、中級では「コミュニケーション」に関わる話題、上級では「社会」に関わる話題が主に扱われている。なお、通時的な話題の変遷についても一定の傾向は読み取ることができたが、量的にじゅうぶんな偏りとは言えず、今後、さらに収録読み物を増やしていき、より精緻な検討を行っていきたい。



C. 話題別多読の実践

2018年度に行った日本語上級クラスでの実践では7つのトピック（車内マナー、アニメ、外来語、IT、結婚、ジェンダー、ゴミ問題）について、日本語教科書から抜粋した5～9つの読み物を読み、語彙・表現の整理を中心に授業を進めた。使用したテキストを分析した結果、同じ話題であっても必ずしも同じ語・表現で示されるとは限らず、単純な頻度だけでは重要語を決定できないことが明らかとなった。しかし、これは言い換えれば、多くの表現を学ぶ機会ともなるものであり、とくに基本的な語彙を学習し終えた中級・上級学

目標	本データベースの対応する話題タグ
1 貧困をなくそう	食／外交・国際関係
2 飢餓をゼロに	食／医療・健康
3 すべての人に健康と福祉を	医療・健康／社会保障・福祉
4 質の高い教育をみんなに	教育・学び
5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー／差別
6 安全な水とトイレを世界中に	住／医療・健康
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギー／環境問題
8 働きがいも経済成長も	労働／経済・消費
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	テクノロジー／ビジネス
10 人や国の不平等をなくそう	差別／社会保障・福祉
11 住み続けられるまちづくりを	町／少子高齢化／社会保障・福祉
12 つくる責任 つかう責任	工業一般／テクノロジー／環境問題
13 気候変動に具体的な対策を	環境問題／気象
14 海の豊かさを守ろう	環境問題／水産業／自然・地勢
15 陸の豊かさを守ろう	環境問題／農林業・畜産／自然・地勢
16 平和と公正をすべての人に	戦争／外交・国際関係／法・裁判
17 パートナリシップで目標を達成しよう	—

※目標 17 は 16 までの目標の実施手段、体制を示したもので、話題とは対応させにくいので、空欄とする。

習者にとっては、多読を通して語彙の豊かな体系を実感し、さらなる語彙学習を進める動機付けになることも期待できる。そのために、実践では付随的語彙学習だけでなく、同義語・言い換え表現、同位語・類似表現をまとめながら、語彙や表現のネットワークを広げていく意図的語彙学習も併用することとし、語彙指導を行った（橋本 2020）。

また、2019 年度には上級日本語級クラスで、内容重視の日本語教育という観点から、SDGs（持続可能な開発目標）の各目標とデータベースの話題を対応させ、その話題で収録されている日本語教科書の読み物を読んでいくという話題別多読を実践した（橋本 2022）。

なお、コロナウイルス感染拡大による留学生の入国制限に伴い、話題別多読による語彙習得の効果検証については、十分なかたちで実施できなかった。本研究課題では、日本語教科書を用いて実践する教育活動であったため、オンラインでの実施や日本語教科書の複写を配布して実施することができなかった。今後、遠隔地においても話題別多読の実践ができるよう著作権フリーの素材を利用した話題別多読についても検討していきたい。

【引用文献】

- 橋本直幸（2018）「語彙習得を促す『話題別読解』の提案」、岩田一成（編）『現場に役立つ日本語教育研究 6 語から始まる教材作り』くろしお出版、pp.31-44.
- 橋本直幸（2018b）『話題別読解のための日本語教科書読み物リスト 2017』科学研究費補助金報告書
- 橋本直幸（2020）「話題別多読の提案と試み」『ヨーロッパ日本語教育』24号、pp.437-445、ヨーロッパ日本語教師会
- 橋本直幸（2022）「日本語教科書読み物データベース」の作成と公開『文藝と思想』第86号、pp.45-55、福岡女子大学国際文理学部
- 山内博之（編）・橋本直幸・金庭久美子・田尻由美子（2013）『実践日本語教育スタンダード』ひつじ書房。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 橋本直幸	4. 巻 24
2. 論文標題 話題別多読の提案と試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	6. 最初と最後の頁 437-445
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本直幸	4. 巻 26-2
2. 論文標題 「話題別日本語教科書読み物リスト」の作成・分析・活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本直幸	4. 巻 -
2. 論文標題 話題別多読の提案と試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本直幸	4. 巻 20
2. 論文標題 語彙習得研究の方法論：イントロダクション	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第二言語としての日本語の習得研究	6. 最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 橋本直幸
2. 発表標題 日本語教科書読み物データベースと話題別多読システムの構築
3. 学会等名 韓国日本語学会第41・42回国際学術研究大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本直幸
2. 発表標題 話題別多読の提案と試み
3. 学会等名 第23回AJEヨーロッパ日本語教育シンポジウム2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本直幸
2. 発表標題 「話題別日本語教科書読み物リスト」の作成・分析・活用
3. 学会等名 日本語教育方法研究会第54回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本直幸
2. 発表標題 効果的な付随的語彙学習を目指した話題別多読の提案
3. 学会等名 韓国日本語教育学会第33回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 美玲・橋本直幸
2. 発表標題 メールタスクにおける「願望を表す表現」の使用実態に関する一考察 日本語学習者と日本語母語話者の「ている」の有無について
3. 学会等名 日本語教育学会2018年度第1回支部集会（九州・沖縄支部）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本直幸
2. 発表標題 効果的な付随的語彙学習のための話題別多読の提案
3. 学会等名 第33回韓国日本語教育学会国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本直幸
2. 発表標題 話題別多読の試み 語との出会いを保障するために
3. 学会等名 日本語教材祭り2017 in 名古屋（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 橋本直幸
2. 発表標題 日本語教材における「話題」の偏り
3. 学会等名 科研費成果物公開記念シンポジウム「話題とコーパスと日本語教育」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 岩田一成(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 255
3. 書名 語から始まる教材作り	

1. 著者名 橋本直幸	4. 発行年 2018年
2. 出版社 私家版(報告書)	5. 総ページ数 119
3. 書名 話題別読解のための日本語教科書読み物リスト2017	

1. 著者名 山内博之(監修)、岩田一成(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 未定
3. 書名 現場に役立つ日本語教育シリーズ6 語から始まる教材づくり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本語教科書読み物データベース
<https://opac.jp.net/Opac/search.htm?s=-oDweME36ExwrOmGKNkV41okBHd>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------